

【新規】しながわ観光大使シナモロール

×

品川区 3 競技応援キャラクターコラボ

◇事業目的

2017 年 2 月に「しながわ観光大使」に任命したサンリオキャラクターの「シナモロール」が持つ高い知名度を最大限に生かし、区内外に広くしながわ観光の魅力を発信する。

2019 年度は、品川区 3 競技応援キャラクター「シナカモン」「ビーチュウ」「やたたま」とコラボレーションし、オリンピック・パラリンピックムードを盛り上げるとともに、来訪者の増加を目指す。

◇事業内容

1. 特設サイト等での情報発信

既存の観光大使シナモロール特設サイト「シナモロールのわくわくしながわタウン」に、4 キャラクターがコラボした専用ページを開設。観光情報や競技情報をトピックにした 4 コママンガ等を活用し情報発信する。

2. オリジナルイラスト・グッズの作成

4 キャラクターがコラボしたイラスト、キービジュアルを作成する。また、ノベルティグッズを作成し、広く配布する。

◇事業予算 5, 160 千円



問い合わせ：文化スポーツ振興部

(シナモロールについて) 文化観光課長

電話 03-5742-6834

(3 キャラクターについて) オリンピック・パラリンピック準備課長 電話 03-5742-6884

～ enjoy ! our 2020 ～

東京 2020 大会に向けた機運醸成

◇事業目的

東京 2020 大会開催まで残り 1 年となる。しながわ 2020 スポーツ大使、区の独自ボランティア「しな助（すけ）」とともに区内開催・応援競技（ホッケー、ビーチバレーボール、ブラインドサッカー）のさらなる周知・啓発を行い、大会開催に向けて区全体のムードを盛り上げていく。

◇事業内容

1. スポーツフェスタ（1 年前イベント）

東京 2020 大会開催の 1 年前を記念し、区内開催・応援競技を含めた様々な競技体験や、しながわ 2020 スポーツ大使、オリンピック・パラリンピアンを招いた交流などのスポーツイベントを開催する。

開催日：7 月 28 日（日）（会場：品川区立総合体育館）

2. シティドレッシング

区内商店街の街路灯などに東京 2020 大会の装飾を施すことで、区内全体での祝祭感を創出し、大会開催に向けた更なる機運の醸成を図る。

3. LINE による情報発信【新規】

ソーシャル・ネットワーキング・サービスのアプリケーション「LINE」を活用し、東京 2020 大会の区内開催・応援競技や区の機運醸成イベントに関する情報を発信する。

◇事業予算 31,873 千円

（内訳）	スポーツフェスタ（1 年前イベント）	15,207 千円
	シティドレッシング	13,610 千円
	LINE による情報発信	3,056 千円



問い合わせ：文化スポーツ振興部

オリンピック・パラリンピック準備課長 03-5742-6884

～ enjoy ! our 2020 ～

東京 2020 大会 区内開催競技を盛り上げる！

◇事業目的

東京 2020 大会の区内開催競技（ホッケー、ビーチバレーボール）について、試合観戦や競技体験・教室等を通じて、認知度のさらなる向上および大会機運の醸成を図る。

◇事業内容

1. ホッケー

都立大井ふ頭中央海浜公園内に整備される「大井ホッケー競技場」において、開催が予定されているテストイベント（※）への参加や、競技観戦および体験教室などを実施する。

(1) テストイベント：8月（会場：大井ホッケー競技場）

(2) ホッケー教室：6月～

※テストイベント…オリンピック・パラリンピックの本大会の成功に向けて、競技運営および大会運営の能力を高めることを目的として実施するもの。

2. ビーチバレーボール

国内で開催されている大会を区に誘致し、試合観戦や競技体験教室などを実施する。

また、都立潮風公園で開催される国際大会（ワールドツアー）の試合観戦・競技体験ツアーなどを実施し、トップレベルの迫力あるプレーを体感してもらう。

(1) 国内大会：5月（会場：大井町駅前中央通り）

(2) 国際大会：7月（会場：潮風公園）

(3) ビーチバレーボール体験教室

◇事業予算 23,059千円

(内訳)	ホッケーテストイベント	1,728千円
	ホッケー教室	2,448千円
	ビーチバレーボール国内大会	17,000千円
	ビーチバレーボール国際大会・体験ツアー	1,883千円



問い合わせ：文化スポーツ振興部

オリンピック・パラリンピック準備課長 電話 03-5742-6884

～ enjoy ! our 2020 ～

東京 2020 パラリンピックの応援

◇事業目的

東京 2020 パラリンピック区応援競技であるブラインドサッカーをさらに盛り上げるため、ブラインドサッカーの迫力を間近で体感するイベントを実施する。また、ボッチャ・パワーリフティングの事前キャンプ誘致や、講演会等のイベントを通じてパラリンピック競技を身近に感じるにより、パラスポーツへの理解を深める。

◇事業内容

1. ブラインドサッカー出前体験教室 (8回程度開催)

区内で定期的に活動している団体を対象に、講師と視覚障害者選手を派遣する。

2. ブラインドサッカー公式戦(東日本リーグ)開催 (区内開催5回目)

ブラインドサッカー公式戦「東日本リーグ」(国内トップレベル)を区内で開催。

3. ブラインドサッカー国際大会(ワールドグランプリ)開催 (区内開催3回目)

日本代表チームと世界の強豪国の代表チームが集う、ブラインドサッカー国際大会「ワールドグランプリ」を区内で開催。体験教室も実施する。

4. ボッチャ・パワーリフティング事前キャンプ誘致【新規】

両競技の強豪国であるコロンビアの練習キャンプを誘致し、東京 2020 大会における事前キャンプ地として品川区をPRする。また、区民との交流イベントも行う。

5. パラリンピックスペシャルイベント

パラリンピック競技の体験や、選手との交流・トークショーなどを通じてパラスポーツへの理解を深める。

◇事業予算 59,555千円

(内訳)	ブラインドサッカー出前体験教室	1,054千円
	ブラインドサッカー公式戦(東日本リーグ)の開催	3,036千円
	ブラインドサッカー国際大会(ワールドグランプリ)開催	36,585千円
	ボッチャ・パワーリフティング事前キャンプ誘致	9,200千円
	パラリンピックスペシャルイベント	9,680千円



問い合わせ：文化スポーツ振興部

オリンピック・パラリンピック準備課長 電話 03-5742-6884

児童センターの東京 2020 大会に向けた取り組み

◇事業目的

スラックラインは、ニュースポーツとして日本に紹介されて約 10 年、品川区の児童センターで取り入れて 7 年が経ち、子どもたちの認知度と技術の向上が目覚ましい。また、卓球は、オリンピックの正式競技であり、全センターで体験できる。

両競技のイベントを開催するとともに、ラッピングモノレールを運行させ、子どもたちと共に東京 2020 大会開催に向けムードを盛り上げる。

◇事業内容

1. 第 2 回 スラックライン ライド オン フェス

子どもたちや親子を対象とした競技会、インストラクターによるワークショップ・デモンストレーションを開催することで、スラックラインの楽しさを知ってもらい、参加者同士の交流を図る。さらに、自由に利用できるラインやエアトランポリン等も配置し、誰もが体験できる機会を設ける。

- (1) 開催日 11 月
- (2) 会 場 滝王子児童センター

2. ふれあいリーグ卓球大会

元オリンピック選手のプレイを間近に見ることで、オリンピックをより身近に感じるとともに、参加する区内小中高生が日ごろの練習の成果を発揮し、交流を図る機会とする。

- (1) 開催日 8 月 31 日 (土)
- (2) 会 場 品川総合体育館

3. 東京 2020 大会がテーマのラッピングモノレールを運行【新規】

児童センターを利用する子どもたちを対象に、オリンピックをテーマに描いた絵を募集し東京モノレールをラッピング・運行する。

- (1) 募集時期 6 月～9 月
- (2) 運行時期 2020 年 4 月～8 月
- (3) 協 力 株式会社東京モノレール

◇事業予算 3, 7 2 2 千円

(内訳)	スラックライン ライド オン フェス	454 千円
	ふれあいリーグ卓球大会	2, 279 千円
	ラッピングモノレールの運行	989 千円



スラックラインライドオンフェス



ふれあい卓球大会



ラッピングモノレール

問い合わせ：子ども未来部 子ども育成課長 電話 03-5742-6719

区立保育園の東京 2020 大会に向けた取り組み

◇事業目的

東京 2020 大会開催に向け、子どもたちの興味・関心を高めるため、スポーツ体験や世界の国々を身近に感じる機会を設ける。

◇事業内容

区立保育園で年1回程度、各園が希望するプログラムを実施する。

1. 各種スポーツ体験教室

ダンス、ボール運動、体操競技、コーディネーショントレーニング、陸上競技などの体験教室を実施する。

2. 外国語(英語)体験

7園で実施する。

3. 世界の国々を身近に感じ、日本の文化への理解を深める

子どもたちの感性を養うため、世界地図・地球儀など世界の国々を身近に感じることができるものや折り紙・和楽器など日本の文化への理解を深めることができる教材を配布する。

◇事業予算

	4, 4 2 2 千円	
(内訳)	各種体験事業委託等	3, 108 千円
	地球儀等購入費	1, 314 千円



スポーツ体験風景



英語体験風景

問い合わせ：子ども未来部 保育課長 電話 03-5742-6722

五反田 水辺が結ぶプロジェクト

～五反田リバーステーション2019年12月 オープン!～

◇事業目的

五反田地区に舟運の拠点として整備する五反田リバーステーションとその周辺の道路および公園を一体的につなぐことで、核となる水辺のにぎわい創出を図る。

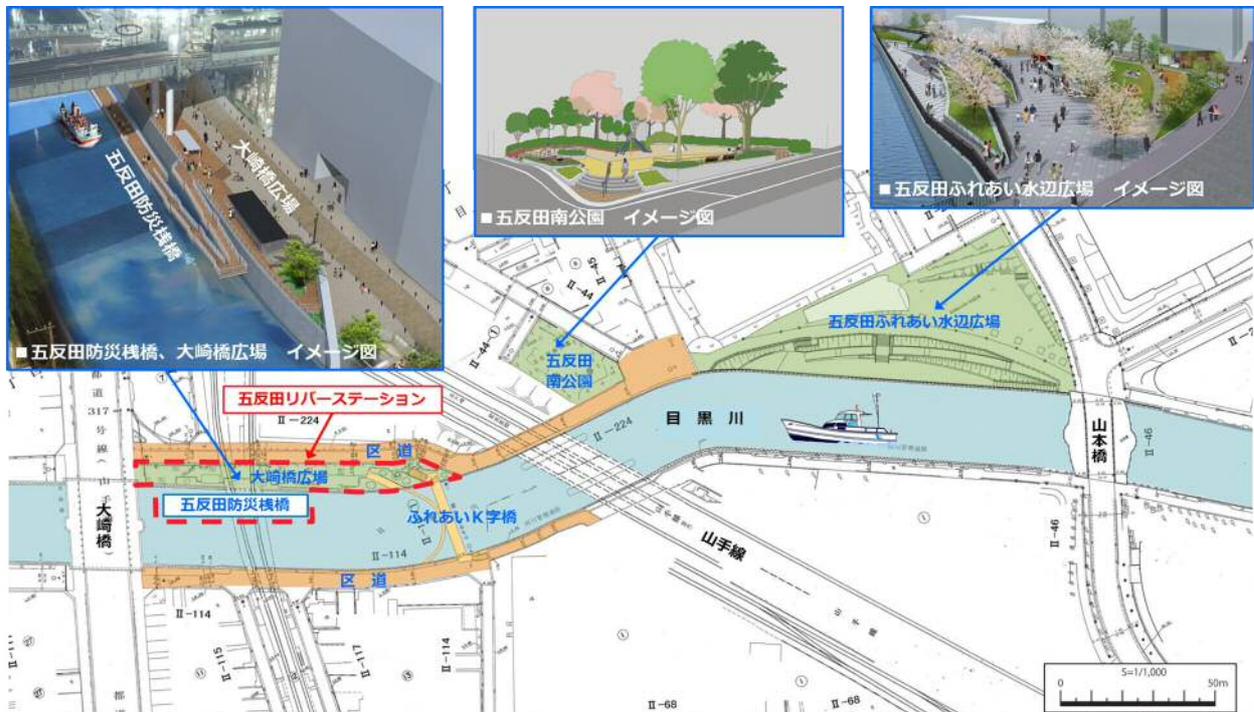
◇事業内容

2018年度に実施した、五反田防災栈橋および五反田南公園の整備に引き続き、2019年度、大崎橋広場および周辺道路、五反田ふれあい水辺広場等の整備工事を実施する。

12月に五反田リバーステーションの供用を開始する。

◇事業予算

	415,913千円	(総事業費：666,550千円)	
(内訳)	大崎橋広場改修工事・施工監理委託		176,408千円
	大崎橋広場周辺道路改修工事・施工監理委託		75,370千円
	ふれあいK字橋・高欄改修工事・施工監理委託		82,297千円
	五反田ふれあい水辺広場改修工事・施工監理委託		80,870千円
	オープニング記念式典運営業務委託		968千円



問い合わせ：防災まちづくり部 河川下水道課長 電話 03-5742-6793

おもてなしトイレの整備 ～東京 2020 大会に向けて～

◇事業目的

東京 2020 大会開催に伴い、外国人を含めた観光客が増加することが予想されることから、区内の公衆便所や公園便所を快適で清潔に利用できるように環境整備を行う。

◇事業内容

- ・平成 30（2018）年度に実施した大井町駅前公衆便所等設計コンペティション結果をふまえた整備
- ・東京 2020 大会開催までに全ての公衆便所の洋便器化
- ・公園便所のさらなる洋便器化・誰でもトイレの設置
- ・清潔で快適に利用できるように清掃回数の増

◇事業予算

545,270千円

（内訳）

大井町駅前公衆便所整備	73,167千円
公衆便所の改修	330,843千円
公園便所の改修	49,806千円
公衆便所・公園便所清掃費	91,454千円



問い合わせ：防災まちづくり部 公園課長 電話 03-5742-6531

“五反田バレー”の取り組み推進 ～情報通信業への支援強化～

◇事業目的

区内（五反田・大崎地区）に AI(Artificial Intelligence：人工知能)、IoT (Internet of Things：モノのインターネット) 等の新たな情報通信技術に係る情報通信事業者やベンチャー企業等の集積が見られ「五反田バレー」と言われている。そこで、情報通信業への支援の強化および 2018 年 7 月に区と連携協定を締結した一般社団法人五反田バレーと連携した事業等を実施することにより、五反田バレーの取り組みの推進を図るとともに、品川区発の新ビジネスの創出および区内産業の活性化を図る。



◇事業内容

1. イノベーション創出支援

(1) AI・IoT 活用イノベーション創出支援事業

AI や IoT 等の新たな情報通信技術を活用して、地域産業の振興や地域課題の解決につながる事業を実施する区内中小企業を支援する（製品・サービス開発助成金 2 年総額 2,000 万円、実証実験実施への支援、専門家による伴走型支援等）。

(2) 五反田バレー情報発信・ネットワークづくり支援事業

「五反田バレー」の情報発信および五反田に集積する情報系ベンチャー企業を中心とする五反田地域全体のネットワーク構築のためのイベント等を開催する。

(3) SHINAGAWA イノベーションフォーラム開催

情報通信業向けのシンポジウムや企業交流会、ビジネスマッチングを開催する。

2. 人材確保および販路開拓支援

(1) エンジニア確保支援事業

IT エンジニア向けのイベントを開催するほか、製造業、情報通信業を対象にエンジニア確保のために人材紹介会社等を活用した際の費用の一部を助成する。

(2) 品川パビリオン共同出展事業

販路拡大支援のため、区内情報通信事業者による展示会へ共同出展する。

3. スタートアップ企業支援

(1) 情報通信業スタートアップ企業向け創業融資制度の創設

(2) 五反田バレースタートアップ企業等魅力発信事業

五反田バレーでの創業機運を高めるための事業提案や、五反田バレーに立地するスタートアップ企業等の認知度アップ・ネットワーク構築のための事業提案等を広く一般公募した上で区が事業認定を行い、事業実施に係る経費を一部助成する。

◇事業予算 76,100 千円

(内訳)	イノベーション創出支援	47,039 千円
	人材確保および販路開拓支援	19,657 千円
	スタートアップ企業支援	9,404 千円

問い合わせ：地域振興部 商業・ものづくり課長 電話 03-5498-6331

【新規】中小企業の自動化・ロボット化を支援

◇事業目的

現在、区内中小企業では技術者などの人手不足が大きな課題となっている。区内中小企業への自動化・ロボット化の設備導入を推進することで、業務効率の向上を図り、競争力の維持および強化を図る。

◇事業内容

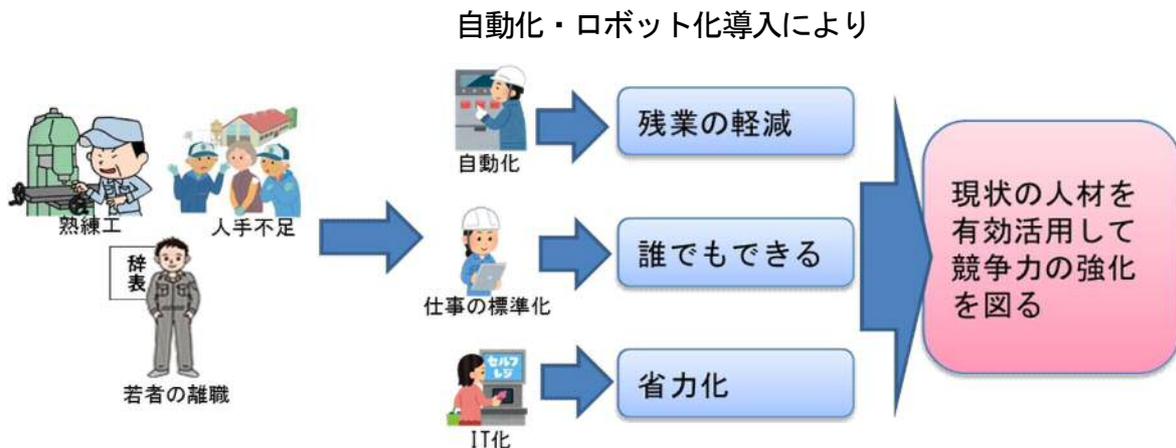
区内中小企業の自動化・ロボット化導入の促進を支援する。

1. 自動化・ロボット化導入推進事業委託

- (1) 受発注マッチングプラットフォーム(ウェブサイト)の構築・運営
- (2) 導入啓発セミナー、ミニ商談会の実施

2. 自動化・ロボット化導入経費助成

製造業の手作業を自動化・ロボット化するだけでなく、RPA（Robotic Process Automation：ソフトウェアによる業務の効率化・自動化）によるデスクワークの定型業務の自動化導入も含め支援する。助成額は経費の3分の2（限度額100万円×8社）。



◇事業予算

10,406千円

(内訳)

ウェブサイト構築・運営、セミナー等の実施

2,406千円

自動化・ロボット化導入経費助成

8,000千円

問い合わせ：地域振興部 商業・ものづくり課長 電話 03-5498-6331

大規模停電への備えを強化 ～災害時の非常用電源の確保～

◇事業目的

災害により引き起こされる大規模停電に備えて、被災者の重要な情報収集手段であるスマートフォンを充電するためのソーラーパネル付ポータブル蓄電池を、区民避難所をはじめとした区有施設その他、区内の鉄道駅に備蓄する。また、区内に 13 カ所ある地域センターは、大規模災害が発生した際、災害時地域拠点として管内の被害状況の調査、情報収集、救援、応急復旧活動等の拠点となる施設であるため、その安全性と一定程度の電力を確保し、災害時地域拠点としての機能が停止することのないよう対策を講ずる。

◇事業内容

1. 区民避難所等にソーラーパネル付ポータブル蓄電池を配備【新規】

- (1) スマートフォンを充電するためのソーラーパネル付ポータブル蓄電池を配備する。
(1 台でスマートフォン約 290 台分)
- (2) 災害時の活用場所
 - ① 学校等の区民避難所 (52 カ所)
 - ② 区内主要 4 駅 (大井町駅、大崎駅、五反田駅、目黒駅)
 - ③ その他の区有施設等 (10 カ所)

2. 地域センター等に発電機器や光源機器等を配備

- (1) 発電機、携帯充電器、急速充電ケーブルの配備【新規】
ポータブル発電機、携帯充電器・急速充電ケーブルを配備する。
- (2) 電気自動車の配備
2018 年度までに 8 台を配備済。2019 年度に 4 台配備し、移転を予定している 1 地域センターを除き、配備を完了する。
- (3) 常備灯の設置【新規】
区内 14 カ所の区民集会所全室に常備灯を設置する。
- (4) ヘッドライト、懐中電灯の配備【新規】
災害対応にあたる区職員用のヘッドライト、懐中電灯を配備する。

◇事業予算

24,161 千円

(内訳)	ソーラーパネル付ポータブル蓄電池リース	13,102 千円
	ポータブル発電機購入	1,760 千円
	携帯充電器・急速充電ケーブル購入	189 千円
	電気自動車購入	8,149 千円
	常備灯設置	100 千円
	ヘッドライト・懐中電灯購入	861 千円

問い合わせ：(上記1について) 防災まちづくり部 防災課長 電話 03-5742-6694
(上記2について) 地域振興部 地域活動課長 電話 03-5742-6689

【新規】暑さ対策

COOOOL! SHINAGAWA! はじめます

◇事業目的

近年、最高気温が35度を超える猛暑日が急増しており、園児・児童・生徒をはじめ高齢者にいたるまで多くの区民が熱中症にかかるリスクが高まっている。

また、区内外から多くの観光客が来訪する東京2020大会において、2競技が開催される品川区として夏場の暑さ対策をさまざま講じ、熱中症対策や避難所機能の強化、快適な施設利用の促進を図る。

◇事業内容

1. 区有施設へのエアコン設置等

(1) 学校体育館や避難所機能を持つ施設へのエアコン設置

小・中・義務教育学校の体育館や格技室、そのほか避難所に指定されている中小企業センター・文化センター・児童センター・特養ホーム等の施設にエアコンを設置し、避難所機能の強化および快適な施設利用の促進を図る。



(2) ミストファンの設置等

区民まつりなどイベント開催時のミストファン設置・冷却シート配付のほか、学校プール開放時の休憩テント設置、大崎駅西口バスターミナルへのミスト設置など、さまざまな暑さ対策を講じる。



2. 暑さ対策エリアのモデル設置

東京2020大会の開催期間中の熱中症対策として、大会競技会場までの歩行ルート上に、一時的に暑さを凌げるエリアをモデル設置する。



3. 「らく〜る」設置助成

事業者等が、利用者が自由に入出りできる施設等において、暑さをミストで緩和させ体感温度を下げる「楽でクール」なミスト発生装置を設置する場合、費用の2分の1(上限250万円)を助成する。

※他の助成制度を併用する場合、差額の2分の1



◇事業予算

1,034,900千円

(内訳)

区有施設へエアコン設置等

1,021,200千円

東京2020大会暑さ対策エリアのモデル設置

3,700千円

らく〜る設置助成

10,000千円

問い合わせ：

(上記1(1) 学校について)

教育委員会事務局

庶務課長

電話 03-5742-6822

(上記1について)

企画部

企画調整課長

電話 03-5742-6905

(上記2について)

文化スポーツ振興部

オリンピック・パラリンピック準備課長

電話 03-5742-6884

(上記3について)

都市環境部

環境課長

電話 03-5742-6748

区立障害児者総合支援施設を整備

◇事業目的

障害児から障害者まで、ライフステージに応じ一貫した生活を総合的・継続的に支援するための地域生活支援拠点を整備する。

◇事業内容

1. 建築概要

- (1) 所在地 南品川 3-7-7
- (2) 敷地面積 2,748.90 m²
- (3) 建築面積 1,489.15 m²
- (4) 延床面積 6,870.90 m² (地下1階、地上6階)
- (5) 構造 鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造
- (6) 開設 10月



外観イメージ

2. 施設・主な実施事業

- (1) 児童発達支援センター（子ども発達相談、児童発達支援事業等）
- (2) 障害者生活支援センター（障害児相談支援事業、特定相談支援事業等）
- (3) 訪問系サービス事業所（居宅介護、重度訪問介護等）
- (4) 日中活動・短期入所系サービスセンター（生活介護、短期入所等）
- (5) 障害者地域活動支援センター（地域活動支援センター事業）
- (6) 多目的室

3. 運営方法

各施設の区分ごとに指定管理者制度を活用して運営する。

4. 医療との連携

民間の精神科を併設し、ニーズの高い精神科の外来診療を行うとともに、児童精神科医による診断から児童発達支援センターでの療育を一貫して行い、発達障害の可能性のある子どもの早期発見につながるよう、児童精神の分野について児童発達支援センターとの連携体制を構築する。

◇事業予算

3,560,862千円

(内訳)	本体工事費等	2,968,000千円
	開設準備経費	417,600千円
	管理運営経費	175,262千円

問い合わせ：福祉部 障害者施策推進担当課長 電話 03-5742-3080

高齢者多世代交流支援施設

【新規】（仮称）東品川ゆうゆうプラザ 開設

◇事業目的

東品川シルバーセンターを大規模改修し、高齢者から子どもまで多世代の区民の交流の場として区内5カ所目となる「（仮称）東品川ゆうゆうプラザ」を開設し、区民の身近な憩いの場・交流の場を目指した事業を行うとともに、高齢者の介護予防、生きがいつくりや子育て支援を推進する。

1. 施設概要

- (1) 施設名称 (仮称)東品川ゆうゆうプラザ
- (2) 所在地 東品川 3-32-10
(都営住宅の1階および2階の一部)
- (3) 延床面積 1,455 m²
- (4) スケジュール 2019年度 工事
2020年度 開設

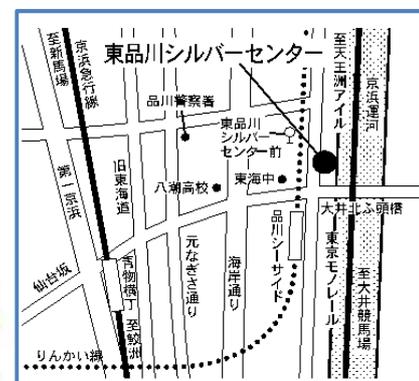
2. 実施予定事業

- (1) 高齢者の介護予防、健康維持・増進、生きがいつくりを支援する事業
- (2) 子育て支援事業
- (3) 高齢者と子育て世代など、多世代の区民との交流を支援する事業

◇事業予算

227,650千円

(内訳)	工事費	196,400千円
	工事監理委託	10,350千円
	開設準備経費	20,900千円



問い合わせ：福祉部 高齢者地域支援課長 電話 03- 5742-6732

総合的な待機児童対策

保育園児の受け入れ 938 人拡大

◇事業目的

区では、多様な待機児童対策を実施することにより、2010年度から2018年度までに6,991人の園児の受け入れ拡大を実現してきた。その結果、2018年4月には保育需要を充足する保育サービス量を提供し、待機児童数は2017年4月の219人から19人まで減少した。しかし、乳幼児の人口や入園申込者数は引き続き増加傾向にあるため、総合的な待機児童対策の推進を継続的に実施し、更なる受け入れ拡大を図る。

◇事業内容

1. 2019 年度拡大枠 938 人

項目	拡大枠	施設数/名称	時期
私立保育園 開設 (保育所型認定こども園を含む)	833人	11園	
	101人	(仮) ウィズブック保育園西五反田	4月
	80人	(仮) はぐはぐキッズ中延	4月
	59人	(仮) 空のはねこども園はたのだい	4月
	73人	(仮) チャイルドマインダー小山台東	4月
	73人	(仮) 不動前えほん保育園	4月
	80人	(仮) まなびの森保育園品川シーサイド	4月
	107人	(仮) こころしながわえばら保育園	4月
	67人	(仮) なぎさ通り保育園	4月
	60人	(仮) みらいく東大井園	4月
	73人	(仮) 大井町えほん保育園	4月
60人	(仮) 太陽の子西五反田保育園	4月	
区立保育園 開設	105人	1園	
	105人	(仮) ほうさん保育園	4月

2. 2020年度拡大枠 760 人 ※施設名称、開設時期はいずれも未定

- (1) 私立認可保育園 開設 拡大枠：720人、施設数：9園
- (2) 認証保育所から認可保育園への移行 拡大枠：40人、施設数：1園

問い合わせ：子ども未来部 保育支援課長 電話 03-5742-6540
 保育施設調整担当課長 電話 03-5742-6037

【新規】インフルエンザの集団感染・学級閉鎖を防止 ～小・中学生のワクチン接種費用を一部助成～

◇事業目的

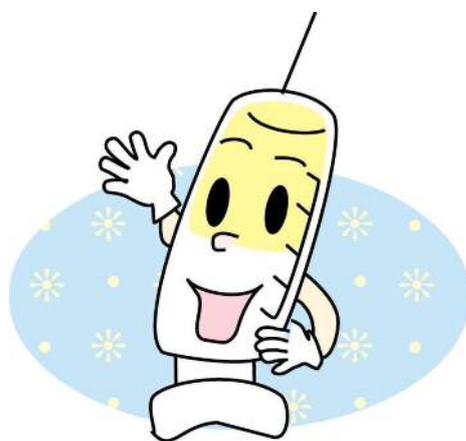
区は、現在 65 歳以上の高齢者を対象にインフルエンザワクチンの定期予防接種を実施しているが、小・中学生のワクチン接種は任意であり、毎年のように学級閉鎖が発生している。

2019 年度より、小・中学生のインフルエンザワクチンの接種費用を一部助成し、重症化を予防するとともに集団感染・学級閉鎖を防止する。

◇事業内容

1. 対 象 区内在住の小・中学生
2. 実施期間 10 月～2020 年 1 月 31 日
3. 助 成 額 1 回につき、1,000 円（13 歳未満は、2 回接種のため計 2,000 円）
4. 助成方法 区内の契約医療機関で接種した場合、窓口で助成額を差し引いた金額を支払う。
5. 実施機関 区内の契約医療機関

◇事業予算 20,495 千円



問い合わせ：品川区保健所 保健予防課長 電話 03-5742-9147

【新規】 高校生の入院医療費助成

◇事業目的

高校生の保険診療による入院医療費の自己負担分および入院時の食事療養標準負担額を助成することで、子育て世帯における経済的負担の軽減を図る。

◇事業内容

1. 対象

高校生等（15歳に達した日以後の最初の4月1日から18歳に達した日以後の最初の3月31日までにある子ども）を養育している保護者

※ 婚姻している、および事実上婚姻関係にある子どもを除く。

2. 助成要件

- (1) 健康保険に加入している
- (2) 子どもの住所が、区内にある

3. 助成範囲

対象となる子どもが2019年4月1日以降受けた、各健康保険適用の入院診療費の自己負担分および入院時の食事療養標準負担額の全額。7月から申請受付を開始する。

4. 所得制限

なし

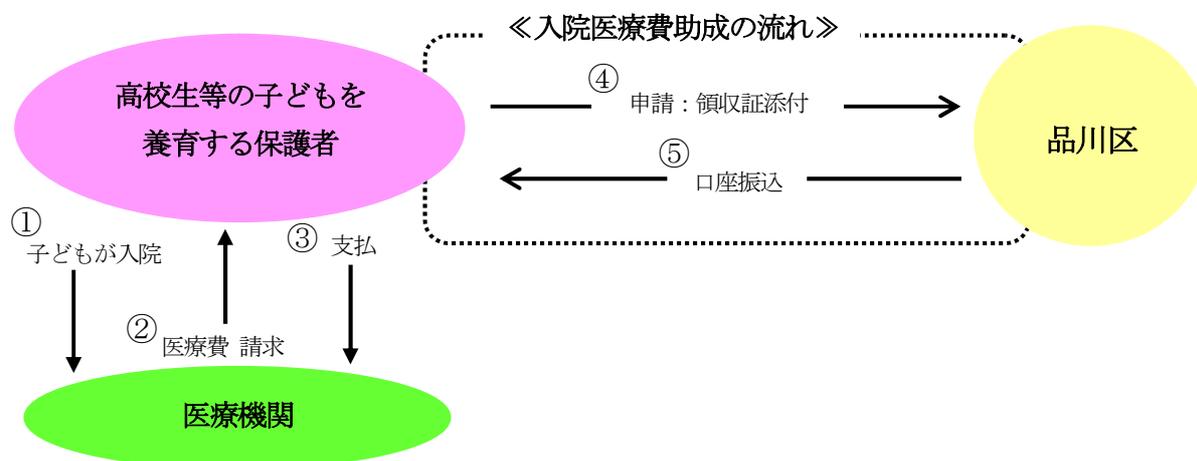
5. 助成方法

対象者からの申請に基づき、審査後、指定された保護者の金融機関口座に振り込む。医療証は発行せず、償還払い方式のみとする。

◇事業予算

18,715千円

(内訳)	入院医療費の助成	8,039千円
	システム改修費	10,676千円



問い合わせ：子ども未来部 子ども家庭支援課長 電話 03-5742-6383

“子どもの食の支援” にクラウドファンディングを活用

◇事業目的

区は、地域での自発的活動であり、孤食対策や子どもの居場所としての「子ども食堂」の運営支援に取り組んできた。さらなる子どもの食の支援を進めるにあたり、ふるさと納税による「ガバメントクラウドファンディング」を活用することで、資金調達だけでなく、地域の理解を深めるとともに、企業参加を推進する。

◇事業内容

1. 子ども食堂の運営支援

子ども食堂について理解を深めてもらうとともに、資金や食品の支援の輪を広げ、ボランティア活動の促進を図る。

2. しあわせ食卓事業の構築【新規】

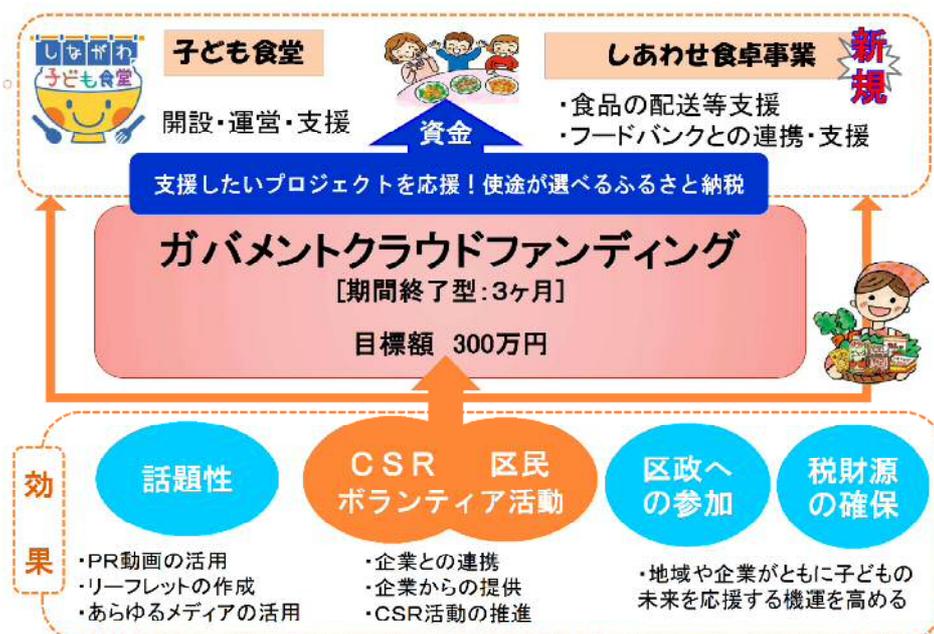
- (1) ひとり親家庭へ食品支援をしているフードバンクとの連携・支援
対象世帯への支援内容の周知、食品等提供企業とのマッチング
- (2) 配送支援
企業の協力やボランティアにより食品を届ける支援

3. 企業への協力・支援啓発

動画・パンフレット等を活用した周知、食品の提供・配送等のボランティア募集

◇事業予算

2, 530千円	
(内訳)	
食品等の配布事業の構築	431千円
ガバメントクラウドファンディング	2,099千円



問い合わせ：子ども未来部 子ども家庭支援課長 電話 03-5742-6383

区役所証明交付窓口のリニューアル

◇事業目的

品川区の人口増等に伴い、区役所の戸籍住民課窓口の利用者は年々増加している。証明交付窓口の業務委託や申請書作成支援システムを導入し、「待たせない・迷わせない・(できるだけ)書かせない」窓口の実現を目指す。

◇事業内容

1. 証明窓口業務の民間委託（実施時期：4月1日）

民間企業の活用により、効率的な運営を行い、待ち時間の短縮を図る。また、フロアマネージャーの配置も増やし、サービス・接遇面を充実させ、来庁者が迷わないように誘導する。

2. 申請書作成支援システムの導入（実施時期：7月）

運転免許証またはマイナンバーカードの情報を読み取り、戸籍や住民票などの交付申請書に氏名・住所等を自動印字するシステムを導入（都内では板橋区に次いで2番目）し、来庁者が申請書の記載に要する時間を短縮する。

3. 窓口カウンター・待合スペースの更新（実施時期：6月～7月）

仕切りパネルを設置し、個人情報保護に配慮した窓口カウンターを更新するとともに、発券機や記載台のレイアウトを含め、区民の動線を意識し待合スペースの見直しを行う。

◇事業予算

194,446千円

(内訳)

証明窓口業務委託

189,292千円

申請書作成支援システム

1,289千円

来庁スペースレイアウト変更

3,865千円

問い合わせ：地域振興部 戸籍住民課長 電話 03-5742-6655

【新規】さらなる推進！区職員の働き方改革「しながわ〜く」

◇事業目的

近年、国や東京都等で「働き方改革」について様々な取り組みが進められている。品川区職員も 2017 年度より、庁内一斉消灯や勤務時間の弾力化などの働き方改革「しながわ〜く」に取り組んでいる。一方、人口増や少子高齢化の加速化により、今後も多様化する行政需要に対し、応えていく必要がある。

こうした状況をふまえ、業務効率化による生産性向上・選択と集中を図り、より良い区民サービスを実現するために、業務分析や改善に取り組み、各種課題の解決につなげていく。

◇事業内容

1. BPR (Business Process Re-engineering : 業務プロセス改革) による業務改善の実施

既存の業務量・業務フロー調査等を実施し、作業プロセスを検証・見直し、改善する。

2. 全庁的な業務改善に向けた検討

庁内に共通する業務改善課題等について、要因分析や改善に向けた方向性等を検討する。

3. モバイルワーク導入

管理職等が、外出先からスケジュールやメール確認、決裁などができる仕組みを導入する。

4. フリーアドレスのモデル実施

職員のデスクを撤去し、共有テーブルを設置してプロジェクトに応じて自由に着席して仕事を行う「フリーアドレス」をモデル実施する。

5. スタンディング会議スペース整備

会議の効率化を図るため、スタンディング会議スペースを確保する。

6. 終業予定時間宣言カード掲示

職員が出勤時に「終業予定時間宣言カード」をデスク上に掲げ、自身の終業時間への意識を高め、業務能率と職員同士の協働意識の向上を図る。



モバイルワーク



終業予定時間宣言カード

◇事業予算

39,177千円

(内訳)

1. BPR 等を活用した業務改善委託経費	4,000千円
2. 全庁的な業務改善に向けた検討経費	4,000千円
3. モバイルワーク導入	26,176千円
4. フリーアドレスのモデル実施	3,351千円
5. スタンディング会議スペース整備	500千円
6. 終業予定時間宣言カード作成経費	1,150千円

問い合わせ：(上記1・2について)

企画部 企画調整課長

電話 03-5742-6905

(上記3・4について)

企画部 情報推進課長

電話 03-5742-6617

(上記5について)

総務部 経理課長

電話 03-5742-6636

(上記6について)

総務部 人事課長

電話 03-5742-6627

【新規】AI(人工知能)等の活用で業務改善の推進

◇事業目的

多様な区民ニーズに迅速に対応していくためには、区役所の業務改善を推進する必要があり、その先進領域として注目されている AI(Artificial Intelligence:人工知能)・RPA(Robotic Process Automation:ソフトウェアロボットによる業務自動化)について、区における適用可能性のある業務領域を抽出し、本格導入に向けた準備を行う。

◇事業内容

1. AI 活用による業務改善

下記のツールについて、実証運用を通じて効果を検証し、区民サービス向けの AI 活用に向け準備する。

(1) AI チャットボット(Chatbot:自動会話プログラム)実証実験

庁内で区職員向けに開設しているパソコン操作等のヘルプデスクへの問い合わせデータをもとに、庁内向けの AI チャットボットを導入し実証運用を行う。

(2) AI 議事録作成支援システム実証運用

音声認識技術により音声データをテキスト化する議事録作成支援システムの導入と利用環境(マイク等の集音機器)を用意し、議事録作成の効率化実証を庁内会議等で行う。

2. RPA 活用による業務改善

RPA 導入の業務選定からソフトウェアロボット構築まで通年かけて実証運用を行い、RPA 本格導入に向け準備する。

(1) RPA 効果検証

プロトタイプロボットの構築・検証による効果測定(約3カ月)

(2) RPA 導入委託

RPA 導入の庁内啓発・業務選定・導入計画策定(約3カ月)

(3) RPA ロボット構築委託

適用可能業務(4業務程度)の RPA 構築・テスト運用(約6カ月)

◇事業予算 35,802千円

(内訳)	AI 活用による業務改善	17,234千円
	・ AI チャットボット実証実験	8,148千円
	・ AI 議事録作成支援システム実証運用	9,086千円
	RPA 活用による業務改善	18,568千円

問い合わせ：企画部 情報推進課長 電話 03-5742-6617